

令和 5 年度 大学塾 第 4 ステージ 開催講座 案内

大河「光る君へ」 ～平安の女流文学から学ぶ～



紫式部

令和 6 年の NHK 大河ドラマは「光る君へ」。
その平安時代には天皇や皇后の知識や教養を高めるために、
優れた貴族の娘たちを教育係として宮中に出仕させました。
その中には「源氏物語」の紫式部、「枕草子」の清少納言、
「和泉式部日記」の和泉式部などがいました。これら 3 人の
作品と生き方、それに時代背景について学びます

講 師： 榊原 金市 氏 NPO 法人シニア大楽 講師 歴史研究家

日 時： 1 月 14・21 日（日曜日）2 回 午後 2 時～4 時

会 場： 足立区生涯学習センター（学びピア 21 内）4 階 講堂

講義内容： 第 1 回 平安時代の背景、清少納言と「枕の草紙」
和泉式部と「和泉式部日記」

第 2 回 紫式部と「源氏物語」

～未来へつなげる地域の底力カラ～ あだち NPO フェスティバル 2023

令和 5 年 11 月 18 日（土）、19 日（日）にエルソフィアを中心に 4 カ所で同時開催されました。
楽学の会は展示部門で 19 日（日）にエルソフィア 3 階に展示出展いたしました。当日は小春日和の暖かな日
で日曜日のためたくさんの人出がありました。主催者発表で 18 日は 3,800 人、19 日は 4,100 人の来場者があ
ったとのこと。「楽学の会」は 19 日一日だけでしたが、講座風景や活動の写真をパネルで展示、活動報告
書や講座チラシ楽学ニュースなどを自由に取れるように並べました。子供向けのワークショップを行っている
団体と同室で両隣のワークショップでは子供連れの家族が物をつくったり、パソコンで遊んだりしていま
した。出展会場への来客者は多かったのですが、小学生を連れた若いご夫婦が多かったせいもあり、地味な私
たちの活動へは残念ながら興味を示せてもらえませんでした。それでも中高年の何人かに声掛けしたり会の説明
をしたり資料をお渡ししました。区議の方、都議の方が見学しながら来所されあいさつをされました。また、私
たちの所でスタンプラリーの印鑑を預かっていたため、押印のために寄った子ども、大人がかなりいました。
大人の方にはお土産ですと楽学ニュースなどを手渡しました。ワークショップの所はどこも賑わっていま
したが、他団体の展示や相談の所は私たちの会と似たような状況で、人が集まって話を聞く人たちはあまり見
受けられませんでした。特に成果はありませんでしたが、区内にどんな NPO 団体があり、どんな活動をしてい
るのかを知ることも大事なことであり、出展しただけでも意義がある一日でした。

（ボランティア活動推進部）



令和5年度 大学塾 第3ステージ 開催報告

鷗外と漱石 — 交差する二人 —

10/15・29・11/5の毎週日曜日に3回にわたり生涯学習センター5階研修室1において開催された。講師は森鷗外記念会常任理事の倉本幸弘氏。応募者は49名・受講者は41名・出席者は第1回39名・第2回37名・第3回34名で累計110名であった。

第1回は「森鷗外と夏目漱石<「猫」の家>」で、「猫の家」が紹介された。明治23年(1890)現在の文京区向丘2-20-7に森鷗外は居を構えた。その後現森鷗外記念館のある文京区千駄木1-23-4の「観潮楼」に移った。向丘の家には明治36年(1903)夏目漱石が住むことになり、「猫の家」といわれ現在明治村に保存されている。明治40年(1907)漱石は漱石山房(新宿区早稲田南町7)に移り住んだ。その後、鷗外の1862~1922年の60年と、漱石の1867~1916年の49年の人生を対比した年表で紹介された。子供時代1969年に漱石は浅草三間町にすむが、1872年に鷗外は向島小梅村に住み、隅田川を挟んで対岸に住んでいた。鷗外は生涯官僚を貫き、漱石は1907年に東大を辞し、朝日新聞に就職する。1884年鷗外はドイツに留学し、1900年漱石はイギリスへ留学した。1910年鷗外は「青年」を1908年漱石は「三四郎」を発表した。1890年鷗外は「舞姫」を、1914年漱石は「ころ」を発表した。二人の生涯を通じて「交差する二人」の様子が紹介された。

第2回は『青年』と『三四郎』で、まず「三四郎」の内容が紹介され、熊本育ちの小川三四郎と里見美禰子のプラトニックな恋愛が1908年に朝日新聞に連載され評判となった。それに刺激されて鷗外は1910年「青年」を「スバル」に連載した。作家志望の小泉純一と坂井夫人れい子の恋愛を描き、両作品とも青春小説の代表作品となっているが恋愛の内容は対照的であった。「青年」は途中で終わっており未完成と言われている。

第3回は『舞姫』と『ころ』で、鷗外の「舞姫」は1890年「国民の友」に発表された。生い立ちからドイツに留学した経験を描いている。主人公は日本への帰国船のサイゴン停泊中に留学時を振り返っている。彼は貧しい娘エリスとの恋愛がばれて帰国を命ぜられた。エリスは妊娠しているが、友人の世話で大臣の通訳となりエリスを残して帰国することになる。「ころ」は1914年に「朝日新聞」に連載された。「上先生と私」「中 両親と私」「下 先生と遺書」の3部構成。「下 先生と遺書」が先に書かれ、この作品の主要部分となっている。鎌倉由比ガ浜で知り合いとなった「先生」は「暗い過去」があった。それは友人が愛している女性を奪ってその女性と結婚することになり、友人は自殺してしまった。それがころの負担となって、ついに自分も自殺してしまう。両作品は学校教材となっており、受講者も若いときに読んだ方が多かった。鷗外の「舞姫」に刺激を受けて「ころ」が書かれた。「舞姫」は自我に目覚めながらも国家に縛られてゆき、「ころ」は寂しさを抱えて死んでゆく。

3回にわたり、鷗外と漱石という明治を代表する二人の大作家の生い立ちや時代の生き方、作品へのかかわり方を「交差する二人」として対照的に示して講義をしていただいた。

受講者の言葉

・鷗外記念館の特別展と連動していてとても有意義な講座でした。これから千駄木を散策して二人の作家の研究を深めたいと思います。・2人の生きた時代背景、国からの圧力をひしひしと感じる舞姫でした。・講師が作品を朗読して頂いたことが大変印象的です。講師と受講者とのQ&Aが興味深く聞くことで作品と作者をより楽しむことができた。倉本講師に鷗外作品の再度の企画を望みます。・作家そして作品別に詳細に内容を分析し文章に潜む奥深い推理がとても印象的。また講師の文学作品は他の分野(美術や音楽)と同様に芸術であるとの言葉が感動的でした。・一回読んで読んだつもりになっていた小説を改めて面白さに気づかされた。・先生は「作者が何を言いたいのか?」というのはナンセンス。漱石がエゴイズムを言いたいというより、エゴイズムをどういう形で表現しているのか、そこを見るべきと言われたのに、すごく道が開かれた気分です。

(糸井史郎)



令和5年11月運営委員会報告・連絡

日時：令和5年11月1日(水) 14:30～

場所：生涯学習センター：5階 研修室 4

代表挨拶：報告および提案：糸井代表代行

- ・「NP020周年記念事業の確認です。第1に記念誌の発行です。第2に北野大氏の記念講演会です。第3に1と2が終了した時点で会員の慰労会を開催したいと思います。
- ・次に大学塾講座は「池波正太郎」と「健康講座」が講師体調不良のため中止となりましたが、「朗読講座」と「北野大氏講演会」で当初の予定通り年間13講座になると思います。
- ・最後に区の情報スタンドに1月の「光る君へ」と2月の「北野大氏講演会」の2講座を申請しました。

議事

(1) 役員人事

- ・篠原代表理事体調不良により代表理事退任、糸井副代表理事が職務代行する。(定款15条による)任期は令和6年6月まで。9/15理事会で決定した。なお講座メール受付業務は篠原理事に継続、担当。事務局当番纏めは福田理事が担当、講座の応募受付纏め(ハガキ、メール受付合体)は林理事が担当。20周年事業実行委員長は糸井副代表理事が担当。
- ・顧問の瀬沼克彰氏 7月24日 逝去されました。(20周年誌のメッセージ投稿依頼し判明、奥様より)

(2) 月例会開催について

- ・9月 9月15日(金) 新会員の活動報告
- ・10月 10月17日(火) 防災 災害時の協力体制について:生涯学習センター 平野所長
- ・11月 11月16日(木) NPO法人設立20周年事業 準備会議報告 討議

(3) あだち区民大学塾： 講座企画会議：10/2(月)、11/1(水)、検討会議：10/17(火)、11/16(木)

- ・9月 西郷隆盛の生涯と幕末・明治 大沢正明講師 9/2、16、24、30 応募者37名、受講者34名
徳川家とあだち 堀口菜純講師 9/18(祝、月) 応募者125名、受講者102名
- ・10月 鷗外と漱石 倉本幸弘講師 10/15、29、11/5 申込締切10/2 応募者46名
池波作品を愉しむ 鶴松房次講師 10/22(日) 申込締切10/9 応募者55名
- ・「池波作品を愉しむ」講座チラシ足立区情報スタンド差込が許可された。前回と同場所、9/4～30
- ・11月 ポスト印象派を楽しむ 島田紀夫講師 11/8、15、22(水) 応募締切 10/25

(4) NPO法人設立20周年記念事業

9/15第1回全体会議、編集会議開催した。記念誌は10月末原稿完、印刷12月中予定で推進する
報告会、祝賀会の開催可否はペンディング。
20周年記念大学塾特別講演会の提案あり、場所、日程を詰める。
区民還元事業、足立区出身の北野大氏、環境問題の講座、会費無料、2月開催予定で調整する

(5) 各部署からの報告および提案

①学習支援部

- ・池波作品講座は講堂だが机・椅子で60名席作る協力をお願いする、運営ボランティアを募集する
- ・令和6年度大学塾講座の検討を開始するので講座の提案をお願いする。10月検討会議より検討する。

②ボランティア活動推進部

- ・サークルフェア2023：10/7、8：参加 展示場所は4階ロビー
- ・あだちNPOフェスティバル：11/19：参加、エルソフィア3階第2学習室

次回運営委員会12月1日(金) 14:30から(研4)

令和5年度 ビューティフル・パートナー感謝状の授賞式 令和5年11月21日(火) ギャラクシティ西新井文化ホール



足立区では、より安全なまちづくりを目指して、地域や警察ほか関係団体と連携し、一丸となって犯罪のない美しい住みよい、まちづくりをめざす「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を展開しています。区内で幅広く各方面で活動を行って居られる区民のパートナー受賞者団体(184団体)、個人(275名)の功労者に表彰状・盾が贈呈されました。

当会会員では、絆のあんしん協力員・協力機関功労者、齋藤龍男氏、不法投棄通報協力員功労者、金子勝治氏の2名が受賞、その貢献に対し、来賓から賛辞の挨拶と近藤区長より感謝状、盾が贈呈されました。受賞された皆様、おめでとうございます。

講座名：名場面で読み始める

シェイクスピア劇

あだち 100 年大学講座

日 時：1/21 (日) 午後 1 時 30 分～3 時

対 象：16 歳以上の方

会 場：5 階 研修室 1 (対面)

受講料：800 円

定 員：対面 30 人、オンライン 10 人

(どちらも事前申込先着順)

講 師：冬木 ひろみ 氏 (早稲田大学文学部 教授)

内 容：詩的な表現や台詞回しが多く、何となく読みづらいシェイクスピアの文学作品を、一度は聞いたことがある名場面や名セリフからご紹介します。

愛情や憎しみ、葛藤といった、現代を生きる私たちにも通じる人間模様が描かれ、時代を超えて愛される作品の数々。ぜひその世界を味わうための入門としてお楽しみください。

◎講座名：出雲大社本殿の推定復元

巨大神殿の可能性

あだち 100 年大学講座

日 時：1/27 (土) 午後 2 時～3 時 30 分

対 象：16 歳以上の方

会 場：4 階 講堂 (対面)

受講料：1,000 円

定 員：対面 50 人 オンライン 10 人

(どちらも事前申込先着順)

講 師：藤澤 彰 氏 (芝浦工業大学 名誉教授)

内 容：現在も多くの方が訪れる出雲大社ですが、かつての本殿はもっと高大で想像を絶する姿だったと伝えられています。2000 年から 2001 年にかけて発掘された巨大柱の遺構をもとに、発掘・復元に携われた講師をお招きして、巨大神殿の可能性に迫ります。

お申込みは：電話(03-5813-3730) 又は直接窓口
インターネット [近所 de まなびナビ] で検索
イベント・講座情報→講座予約システム

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の中止、延期の場合もございます。

月例会のご案内

令和 5 年 12 月「月例会」のご案内

12 月 15 日 (金) 午後 15 時～ 研修室 4

テーマ：1 年の振り返りと情報交換・懇親会

(懇親会会場：北千住 日本海)

令和 6 年 1 月「月例会」のご案内

1 月 15 日 (金) 午後 10 時～12 時

テーマ：生涯学習センター防災訓練

*皆様の積極的な参加をお待ちしています。

(ボランティア活動推進部)

- ◎ 運営委員会
12 月 1 日(月) 午後 2 時半～4 時 研修室 4
- ◎ 月例会
12 月 15 日(金) 午後 3 時～5 時 研修室 4
- ◎ 学習支援部
12 月 15 日(金) 午後 1 時～2 時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部
12 月 5 日(火) 午後 2 時～4 時 ワークルーム
- ◎ 事務局
12 月 4 日(月) 午後 2 時～4 時 ニュース発送
12 月 12 日(火) 午後 2 時～4 時 事務局部会
12 月 26 日(火) 午後 2 時～4 時 ニュース発送
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
12 月 15 日(金) 午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
12 月 1 日(水) 午後 1 時半～2 時半 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
12 月 11 日(月)

★お問い合わせ & ご意見◎「楽学の会」の運営
に関するお問合せ

事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444

E-Mail : tefukuda2002@ybb.ne.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けて 再生可能エネルギーの現状と取り組み①

再生可能エネルギーとは低炭素のエコなエネルギーの総称です。再生可能エネルギーの種類と特徴、そのメリットとデメリット、日本と世界の再生可能エネルギーに対する取り組みについて、なぜ取り組むべきなのかを学びます。再生可能エネルギーの主な種類は、① **太陽光発電** 太陽光を電気に変換する発電方法であり、すでに日本では一般家庭でも取り入れられるほど身近なものとなっています。導入コストの問題や、天候に左右されやすく安定供給が難しいというデメリットがあります。② **水力発電** 水に恵まれた日本では、安定的に電力を作り出すことができますが、太陽光発電と同じく、初期コストがネックとなる発電方法です。③ **風力発電** 欧米では一般的で、風の有無に影響されるため日本ではまだ大規模な導入には至っていません。④ **地熱発電** 火山の多い日本では安定的にエネルギーを作り出すことができる方法です。発電できる場所が温泉などの施設と近接してしまう可能性があります。日本では東北や九州などで地熱発電所が稼働しています。⑤ **バイオマス発電** 廃棄物や間伐材などをリサイクルして発電する方法です。こちらも安定供給が可能な発電方法ですが、燃料のもととなる廃棄物の運搬や管理などにコストがかかります。⑥ **太陽熱** 太陽の熱エネルギーを利用して給湯や暖房などに活用するシステムです。単純なシステムなので導入しやすいのですが、太陽を利用するため安定供給が難しく、初期費用がかさむのがデメリットです。⑦ **その他、自然界に存在する熱** 寒冷地で活用できる雪氷熱利用や、地中の熱を利用する方法など、さまざまな熱を活用する方法があります。(次号へ続く) (金子勝治)